

博物館リンクワーカー人材養成講座

「コロナ禍でも地域住民とつながっていく方法を考える」

カナダの医師会は2018年10月から、患者の健康回復を促進する治療の一環として、美術館への訪問を「処方箋に書く」取り組みを始めています。医師会とモントリオール美術館が連携し、心身にさまざまな健康問題を抱える患者とその家族などが、無料で美術館に入館し、芸術文化の健康効果を楽しむことができました。

また、英国のウェストミンスター大学のAngela Clow氏は、ロンドンの労働者を対象に、昼休みにアートギャラリーを短時間訪問の前後で、ストレスマーカーとなる「コルチゾール」の検査を行いました。訪問時はかなり高い値を示しましたが、見学後の数値は正常値に戻っていました。美術作品を昼休みの短時間に見るだけでも、ストレスの軽減になると報告しました(2006年)。

ところで、日本では団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」に続き、団塊ジュニア世代が全て高齢者になる「2042年問題」が浮上し、社会保障費の増大、勤労世代の減少が大きな課題です。

そこで、本事業では、カナダをはじめ、英国、台湾などの事例調査をもとに、高齢者の「博物館浴*」プログラム開発、そして医療従事者と高齢者、博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことで、「2042年問題」解決に向けた社会資源の新たな活用方策＝社会的処方場となる「博物館健康ステーション」運用、さらに地域の高齢者医療の新たな枠組みを提案したいと考えています。

今回の連続講座は「オンライン語り場」と名づけています。

新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、博物館などを活用しながら、高齢者をはじめ、地域住民とのつながりを粘り強く実践する医療従事者、大学教員、博物館学芸員からの話題提供を受け、その後は参加者と一緒に意見交換を行う「語り場」とします。

こうした「語り場」を通じて、地域の社会教育施設、医療・福祉機関が協働した「誰もが全国5,700ある博物館のリンクワーカー」という、新たな地域人材育成の方策やプログラム開発を考える機会を共に作りましょう。

* 博物館浴：博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果を人々の健康増進・疾病予防に活用する活動

「オンライン語り場」日程一覧

回数	開催日	開催時間	タイトル	講師
1	11月12日(金)		博物館浴研究の最前線	緒方 泉 (九州産業大学)
2	11月19日(金)		オンライン博物館浴プログラムの実際	井上 幸一 (福岡女子短期大学)
3	11月26日(金)	13:00~14:30 話題提供 30分、 その後は「語り場」	台湾の博物館処方箋プログラムの動向	中込 潤 / 施 燕 (九州産業大学美術館)
4	12月3日(金)	* 11/19のみ 18:00~19:30	認知症高齢者と社会教育施設をつなぐ	竹下 一樹 (大牟田市中央地区地域包括支援センター)
5	12月10日(金)		回想法で高齢者施設と博物館をつなぐ	永田 文昭 (宮崎県総合博物館)
6	12月17日(金)		アート活動で高齢者と美術館をつなぐ	鬼本 佳代子 (福岡市美術館)

開催方法	Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング	定員 >>> 各回30名	受講料 >>> 無料
------	------------------------	--------------	------------

参加対象	博物館・図書館/保健医療福祉関係者、大学教員、学芸員有資格者で「高齢者の健康と博物館」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等
------	---